

守山企業景況調査報告書

(第48回)

令和3年7月～令和3年9月期 実績

令和3年10月～令和3年12月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和3年7月～令和3年9月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	19	13	68.4%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	14	73.7%
卸売業	5	3	60.0%
合計	68	52	76.5%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和3年7月～令和3年9月、見通しを令和3年10月～令和3年12月とし、調査時点は令和3年10月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和3年7月～令和3年9月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた

数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和3年7月～9月期の調査結果では、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは0.0で前回調査の▲30.8から30.8ポイント上昇した。業種別では、小売業▲7.7（前回調査比+6.6）、製造業16.7（前回調査比+41.7）、建設業0.0（前回調査比+20.0）、サービス業▲7.7（前回調査比+50.6）、卸売業0.0（前回調査比+50.0）と全ての業種で上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲2.0である。

<売上高>

売上高DIは▲5.8で前回調査の▲7.5から1.7ポイント上昇した。業種別では、小売業▲7.7（前回調査比±0.0）、製造業8.3（前回調査比▲16.7）、建設業▲10.0（前回調査比▲10.0）、サービス業▲21.4（前回調査比+21.5）、卸売業33.3（前回調査比+33.3）であり、サービス業と卸売業が上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲3.8である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲5.8で前回調査の▲20.8より15ポイント上昇した。業種別では、小売業▲15.4（前回調査比▲30.8）、製造業16.7（前回調査比+33.4）、建設業▲10.0（前回調査比+20.0）、サービス業▲14.3（前回調査比+28.6）、卸売業0.0（前回調査比+50.0）で小売業を除く4業種で上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲8.0である。

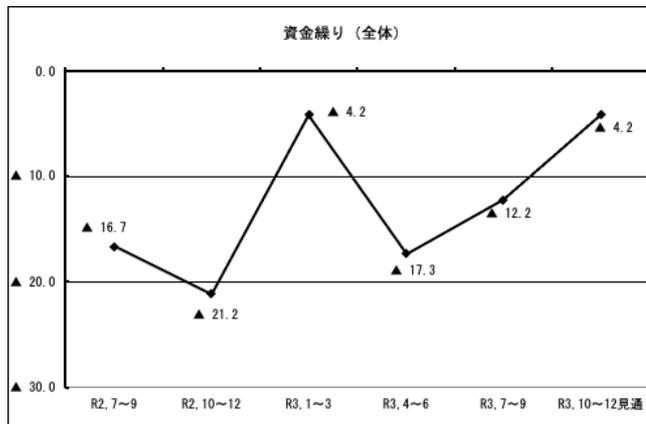
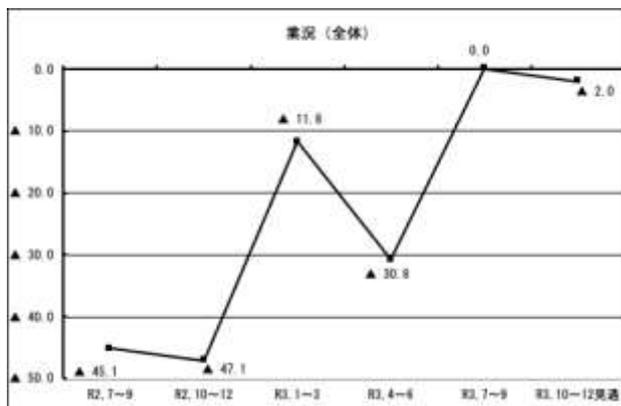
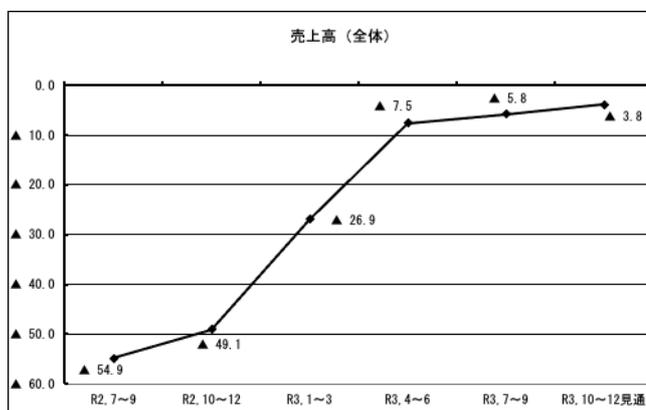
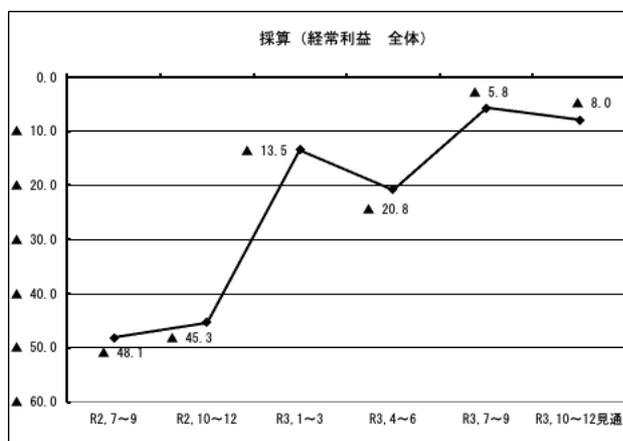
<資金繰り>

資金繰りDIは▲12.2で前回調査の▲17.3から5.1ポイント上昇した。業種別では小売業▲8.3（前回調査比+13.1）、製造業0.0（前回調査比+10.0）、建設業▲20.0（前回調査比±0.0）、サービス業▲21.4（前回調査比▲7.1）、卸売業0.0（前回調査比+25.0）で小売業、製造業、卸売業が上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲4.2である。

<コロナウイルスの影響などの意見>

- ・ 緊急事態宣言が解除され、少しは戻るものと予想されますが、コロナ前とは程遠いものと思います。各種の事業者向け施策はとてもありがたいです。
- ・ 取引先設備投資の凍結が響いている。
- ・ 営業活動がweb と電話に制限され新規営業に影響が出ている。
- ・ 原材料入手が難しく、製造に影響が出始めている。
- ・ 出張や展示会等が制限され、営業活動ができない。
- ・ 9月頃より外販がぼちぼち増加し始めている。2~3年前の半分以下だが、0よりはマシ。



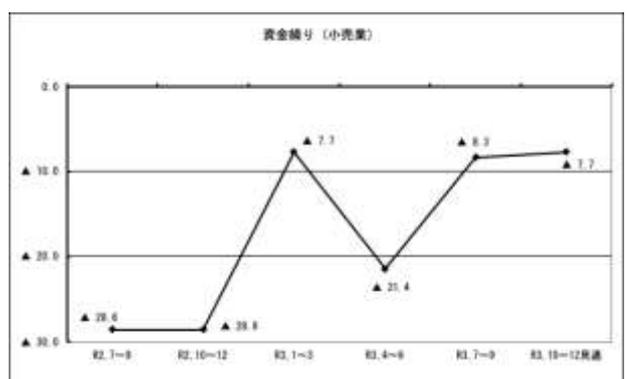
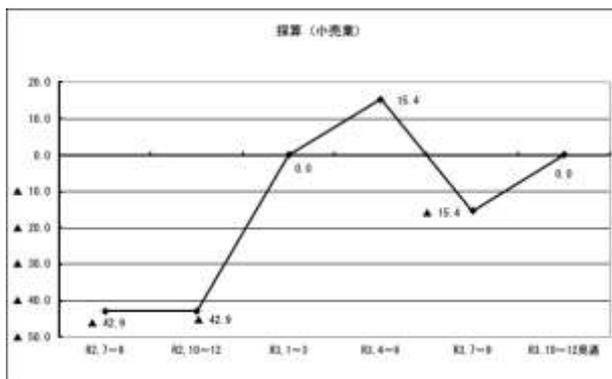
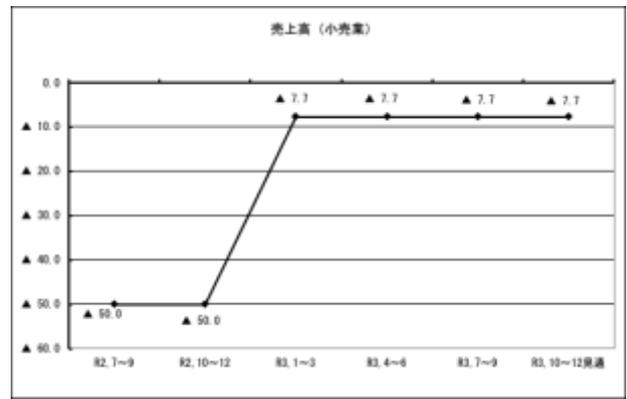
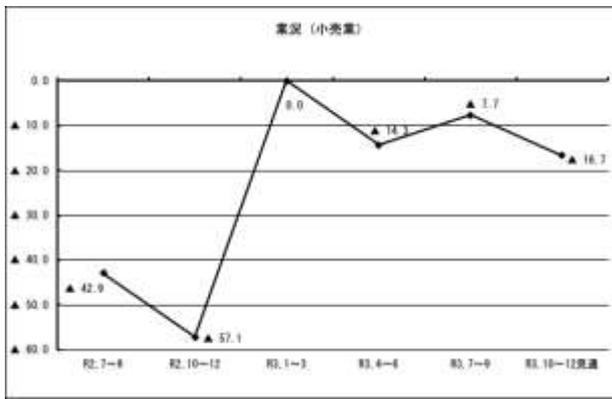
小売業

小売業の業況DIは▲7.7で前回調査に比べて6.6ポイント上昇した。前回調査で少し数値を落としたが、今回は上昇に転じた。1年前のコロナ禍に比べると大きな上昇であり、回復基調にあると考えられる。10月～12月期見通しは▲16.7であった。

売上高DIは▲7.7で前回調査と同じであった。3四半期連続で▲7.7となり安定的な動きになっている。10月～12月期見通しは▲7.7と見通しも同じ値であった。

採算DIは▲15.4で前回調査より30.8ポイント低下した。業況と売上高が安定した動きを見せている中で採算はマイナスに反転した。しかし、10月～12月期見通しは、0.0と再び上昇に転じており、採算について一時的な動きがあったとも考えられる。

資金繰りDIは▲8.3で前回調査より13.1ポイント上昇した。前回調査では資金繰りとしては大きな低下を見せたが今回調査では戻しており、資金繰りの不安は大きくないと考えられる。10月～12月期見通しは▲7.7で上昇している。



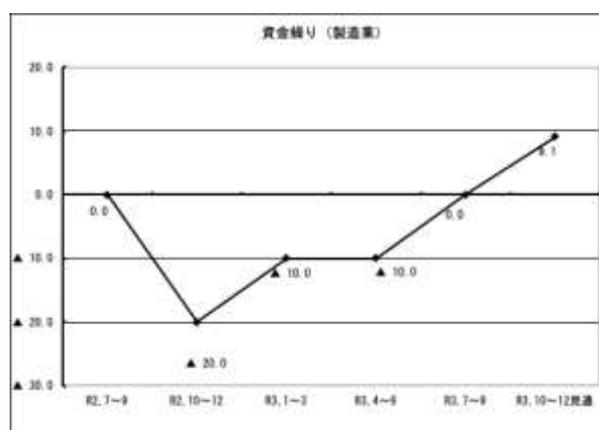
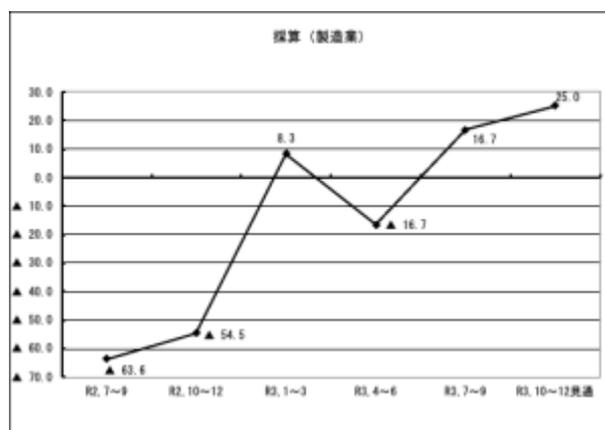
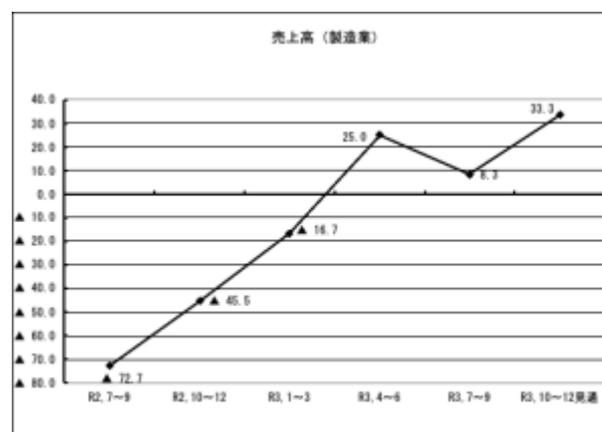
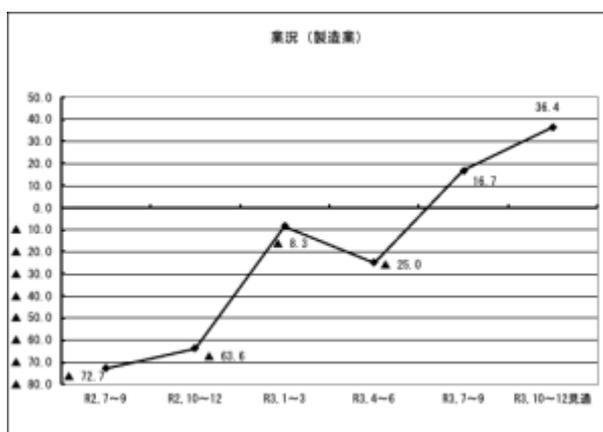
製造業

製造業の業況DIは16.7と前回調査に比べて41.7ポイント上昇した。前回調査で一度数値が低下したが、今回調査では逆に大きく上昇した。傾向としてみれば回復の真っ只中にあるようで、10月～12月期見通しも36.4と今回実績より上昇しており、先行きは明るくなっている。

売上高DIは8.3で前回調査と較べて16.7ポイント低下した。3四半期連続で大きく上昇した前回調査から一転して今回調査では低下した売上高DIであるが、プラスの数値のままであり、10月～12月期見通しは33.3であることを考えると、回復した中にあると考えられる。

採算DIは16.7で前回調査より33.4ポイント上昇した。採算DIも前回調査では低下したものの今回調査では上昇しており、プラス領域であること、10月～12月期見通しが25.0であることなどを考えあわせると十分に回復の中にあると考えられる。

資金繰りDIは0.0で前回調査と前回調査より10.0ポイント上昇した。▲10.0が2四半期続いた後の0.0なのでこれも回復、安定してきていると考えるべきで10月～12月期見通しも9.1で資金繰りは安定している。



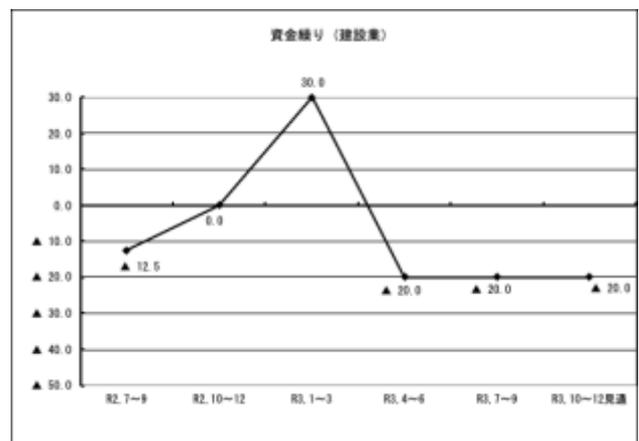
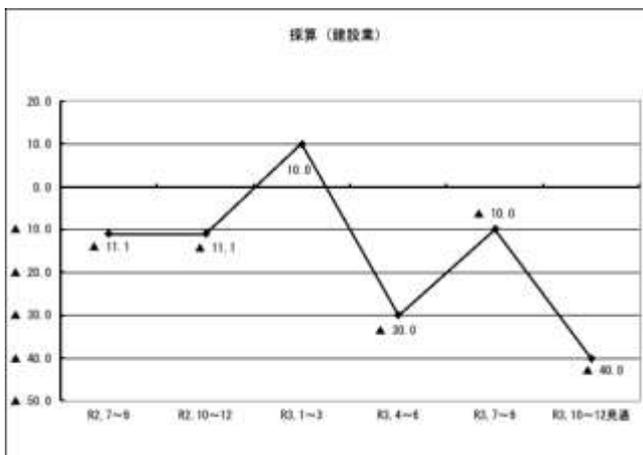
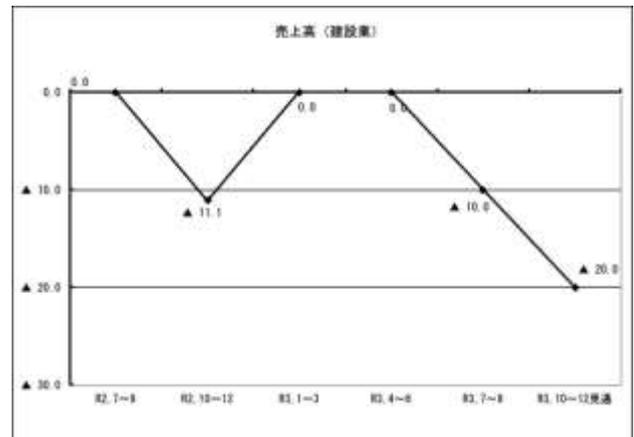
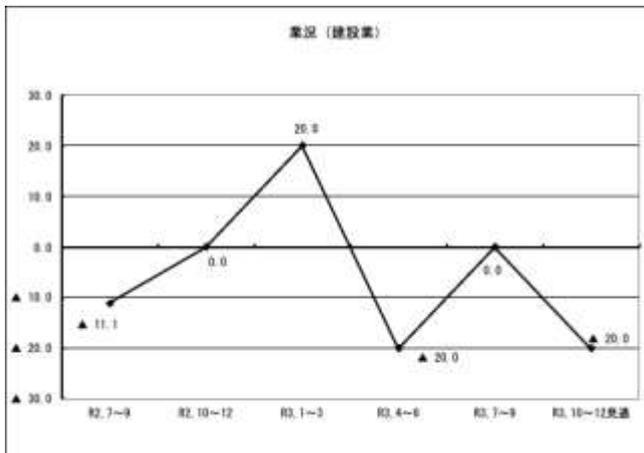
建設業

建設業の業況DIは0.0であり前回調査から20ポイント上昇した。前回調査で大きく数値を下げたが今回調査では上昇に転じた。1年前の調査でも4月～6月期は数値が低く、7月～9月期はそこから上昇に転じるという動きであり、季節性のものとも考えられる。10月～12月期見通しは▲20.0と低下を予想している。

売上高DIは▲10.0で前回調査より10ポイント低下した。ここ1年の売上高が0.0から▲10.0付近で推移しており、令和2年4月～6月期の▲60.0から比べるとかなり安定している10月～12月期見通しは▲20.0と低下が予想されている。

採算DIは▲10.0で前回調査より20.0ポイント上昇した。前回調査で大きく下げた採算DIであったが今回調査では少し戻した。採算面でも安定しているかのように見えるが、10月～12月期見通しが▲40.0であり、安心はできない予想になっている。

資金繰りDIは▲20.0で前回調査と同じであった。元々大きく動きにくい指標であるが、令和3年に入ってから30.0から▲20.0と大きく動いており不安定になっている。しかし、10月～12月期見通しも▲20.0で低い数値であるが動きが落ち着いてきている。



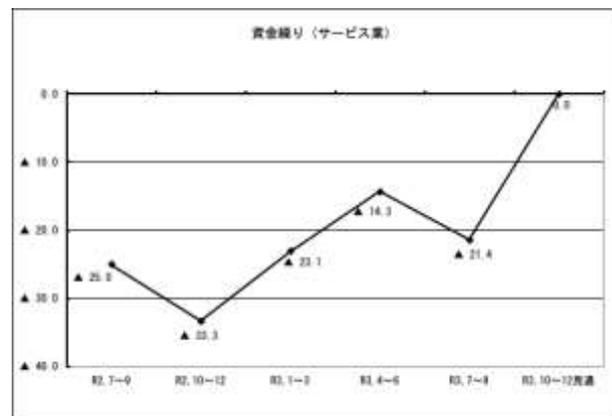
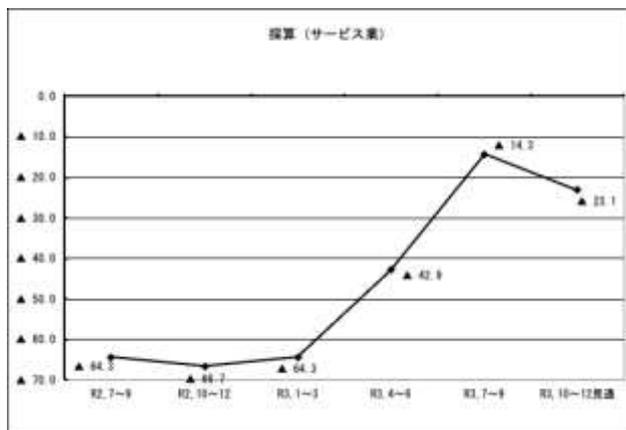
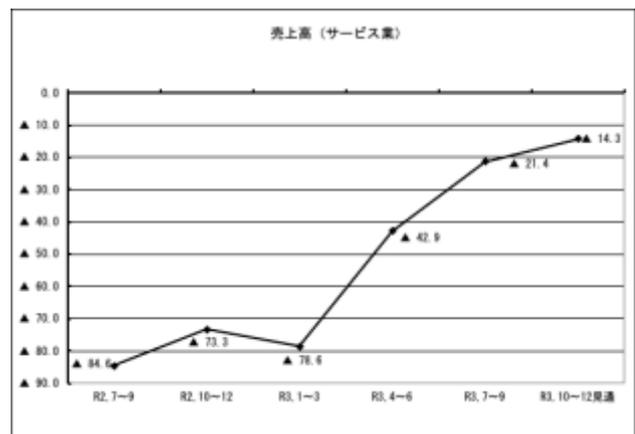
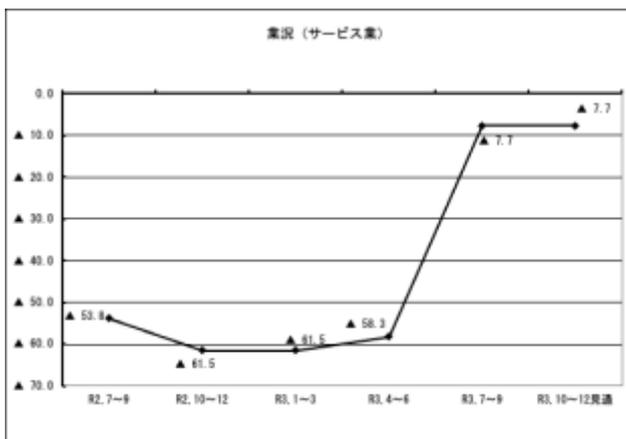
サービス業

サービス業の業況 DI は▲7.7 で前回調査に比べて 50.6 ポイント上昇した。令和 2 年 4 月～6 月期から▲50 ポイント台が続いてきたが今回調査でようやく▲7.7 とマイナスが 1 桁台になり大きく改善した。10 月～12 月期見通しも▲7.7 でサービス業の業況が回復を見せている。

売上高 DI は▲21.4 で前回調査より 21.5 ポイント上昇した。売上高 DI は前回調査に引き続き上昇の傾向が続いている。まだまだマイナスの数値であるものの 1 年前の▲84.6 と比較するとかなり大きな回復であり、10 月～12 月期見通しも▲14.3 と上昇の傾向は続くと考えられている。

採算 DI は▲14.3 で前回調査より 28.6 ポイント上昇した。採算も数値は上昇しており回復の基調に入ってきたかのような動きである。10 月～12 月期見通しは▲23.1 で今回調査より低下しているのが気かりである。

資金繰り DI は▲21.4 で前回調査より 7.1 ポイント低下した。資金繰りは低い数値のまままで推移しており回復は他の指標に遅れているようであるが、10 月～12 月期見通しは 0.0 で資金繰りも回復しそうな予想である。



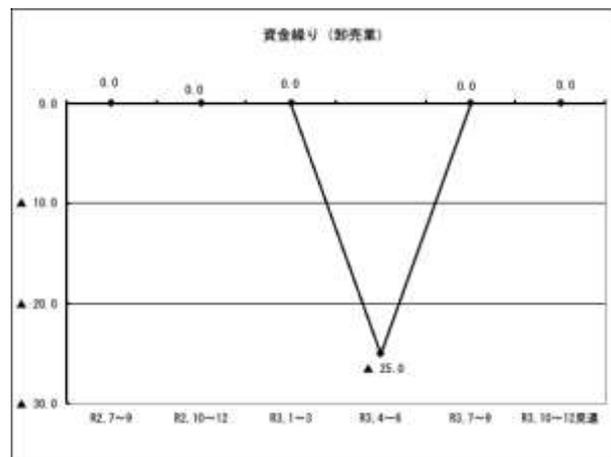
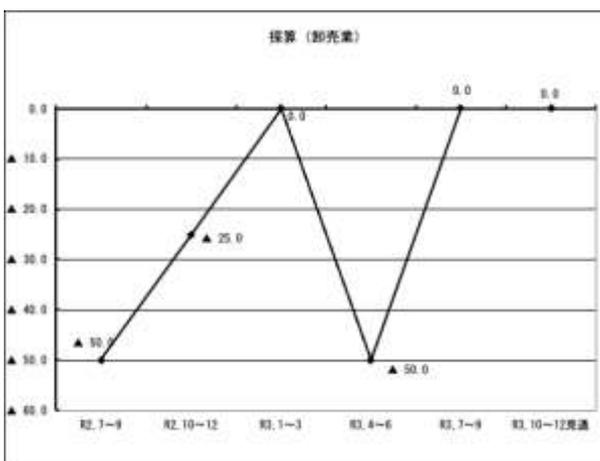
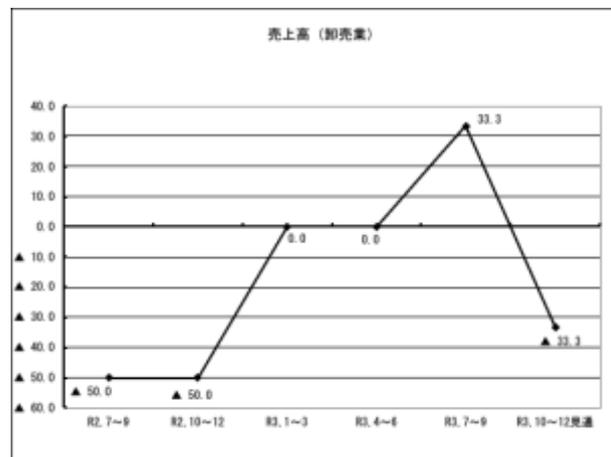
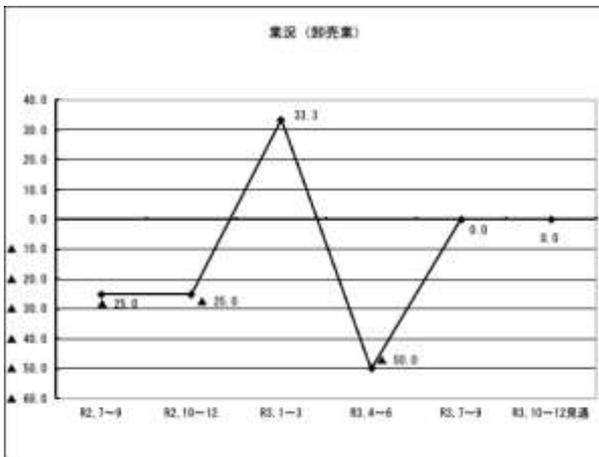
卸売業

卸売業の業況DIは0.0で前回調査より50ポイント上昇した。前回調査が▲50.0と大きく下げたが今回はそれを挽回した動きをしている。10月～12月期見通しも0.0であり、業況は安定しているようである。

売上高DIは33.3で前回調査より33.3ポイント上昇した。しかし、10月～12月期見通しは▲33.3と逆転しており、売上高が改善基調にあるとは断定できない結果になった。

採算DIは0.0で前回調査と比べて50ポイント上昇した。前回調査で大きく下げた分を取り戻した格好になっている。10月～12月期見通しも0.0なので採算は安定してきていると見ることができる。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査より25.0ポイント上昇した。卸売業の資金繰りは前回調査まで4四半期連続で0.0であったが前回は▲25.0と低下してしまった。そして今回は0.0に戻っており、傾向としてみれば安定しているようである。10月～12月期見通しも0.0である。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	0.0	▲ 2.0	▲ 5.8	▲ 3.8	▲ 5.8	▲ 8.0
小売業	▲ 7.7	▲ 16.7	▲ 7.7	▲ 7.7	▲ 15.4	0.0
製造業	16.7	36.4	8.3	33.3	16.7	25.0
建設業	0.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 40.0
サービス業	▲ 7.7	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 23.1
卸売業	0.0	0.0	33.3	▲ 33.3	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	14.0	9.8	▲ 12.2	▲ 18.4	2.0	▲ 4.2
小売業	▲ 8.3	▲ 15.4	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 8.3	▲ 9.1
製造業	41.7	54.5	16.7	8.3	0.0	▲ 8.3
建設業	11.1	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	22.2	11.1
サービス業	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 21.4	▲ 14.3	0.0	▲ 7.7
卸売業	100.0	100.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	▲ 12.2	▲ 4.2	2.4	4.9	5.0	4.9
小売業	▲ 8.3	▲ 7.7	▲ 11.1	0.0	0.0	0.0
製造業	0.0	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲ 21.4	0.0	10.0	9.1	10.0	9.1
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

